

「創造活動・24時間学校(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(1) 24時間、学校で生活!

子どもたちの平日の生活は、8時前後に登校して、16時前には下校する。学校に滞在しているのは約8時間で、一日の3分の1である。今回、3年生はそれを24時間に延長し、翌朝8時まで一緒に生活するという活動をした。子どもたちは「夜の学校」「お泊まり学校」「半月の学校」「24時間学校」などと呼び、ずいぶん前から準備して、楽しみにしていた。



「開校式の様子」 司会はみかく委員(こども委員)

(2) 夕食も自分たちでつくる

今回の24時間学校は、「3年生でも、出来るだけ自分たちの力で活動を実現させよう」という、共通の目標があった。そこで、各クラスで役割を分担し、何週間も前から準備を進めてきた。



1組は、「イベント・プロジェクト」、略して「イベプロ」だ。主に、「夜の校舎たんけん」(つまりきもだめし)の企画、運営をする。2組は、「寝る・プロジェクト」、略して「寝るプロ」。家から持ってきた段ボールとタオルケットで、いかに快適に寝るか、という研究をし、学年に伝える。3組は、「飯・プロジェクト」、略して「めしプロ」。自分たちでおにぎりをつくる方法を研究して、学年に伝える。



「めしプロ」指導による、おにぎりづくり

(3) 段ボールの寝床づくり

今回の活動では「防災教育」の観点も大切にしたい。各地の地震の報道でも、避難所に段ボールを敷いて休む姿が見られた。段ボールは日常生活に溢れている。断熱性に優れ、少なくとも木の床よりは寝心地が良い。段ボールは家から持ってくることを基本とした。ごごのように丸めて持って来る子どもが多かった。



夜になる前に、教室を男児・女児別に仕切り、寝床づくりをしておいた。数枚重ねて実際に横になると、以外にも寝心地が良く、夜が楽しみになった。

